

月報 岡崎の教育

11月号

土が語りかけ
流した汗が教えてくれた
秋の光の中に輝く
我らが「こあゆ農園」

“こ”心を磨き
“あ”明日を拓き
“ゆ”夢を育む

小さな種にこもった作物の命
いとおしみはぐくみ
時をかけ 時期を待つ
豊かな実りを願うみんなの心

新生竜南の地に
拓かれし「こあゆ農園」
汗と体験を通して
ああ 我らも共に育つ

昭和62年11月1日
発行 / 編集
岡崎市教育委員会

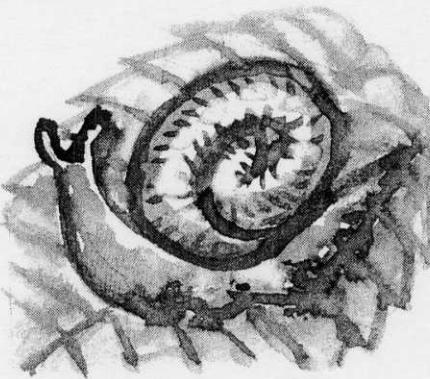


(流汗悟道 一 竜南中)

「わたしは病気じやあない。」
内因性精神障害のある人は、病識（病気だという自覚）がないという。

治療して状態がよくなると、馬鹿なことをやつた、とんでもないことをした、「わたしは病気だ」と自覚してくる。そうなると自分から治そうと努力するようになるという。

* * *



— 教育隨想 —

診る・治す

山本 昇

身体的病変が基礎となつて生じる外因性のものもあるので、身体の検査を行う。精神的原因がある場合は、それを除外することが第一である。

また、精神的ショックや複雑な対人関係から生じた心理的ストレスによって障害が起り、そのなりたちが心理的に解釈される急性ストレス反応や神経症（ノイローゼ）などの心因性のものもある。

がとらえられず、しかもそのなりたちを心理的に解釈しつくすこともできないものが少なくない。これらは内因性精神障害（分裂病、躁病、うつ病）といわれている。この治療は、薬物療法と生活療法が中心となる。薬を与える症状をある程度おさえ、軽くしておさまっていくのを待つ。生活療法は、作業やレクリエーションなどによつて、陰性症状（意欲減退、やる気がなくなる）を治すために刺激を与えるものである。この場合気をつけたいのは、集団として扱わずひとりひとりに応じて扱うことである。

* * *

精神的に健常な状態とは、どういう状態をいうのであるか。これは、精神的な疾病にかかっていないことはもちろん、個人が社会の中で良い適応の状態において生活できていることと考えられる。この意味で「ある集団と時代の平均からの逸脱」として浮かびあがつてくる不適応事例も精神衛生が取扱う対象であろう。

学童期、青少年期に見られる登校拒否、いじめ、暴力、性的非行、社会的逸脱行為など不適応障害を、どのように診て、どのように治していくか、学校も家庭も社会も理解と協力が必要であろう。先の精神科医からお聞きした話は、精神的な疾病的場合のことではあるが、その話の中に私たちが直面している不適応事例の診かた、治しかたの一端を見つけたような気がする。

ある精神科医にお話を聞く機会があつた。精神科の場合、どんな診察をして、どんな治療をするのか概要を聞いた。

まず、本人のいないところで家族から今までや今の状態をあらかじめ聞く。つぎに本人から聞く。ゆきり症状を聞く。先入観をもつて誘導すると変な方向へ行ってしまうので気をつける。場合によつてしまふので気をつける。

では心理検査や脳波検査を行う。

次に、原因と思われる身体的病理所見



できる喜びを

音楽科指導員

永田 邦雄

音楽が苦手なS男は、音楽の時間になると集中力がなくなり、しばしば注意される。しかし、今日は違っていた。たて笛の三重奏を練習した後の希望者による発表で、他の二人の気の進まないのをふり切って、力いっぱい手を挙げている。それもそのはず、彼には自信があったのである。もともとは二重奏の曲を三人で取り組ませたのに、わけがあつた。その曲は上下のパートが同じくらいの難易度で、そのままでは吹けない子が必ず出るので、新しいパートを追加したのである。オステイナーと謂われる方法で、属音（長調の場合、ソの音）を簡単なりズムで繰り返すのである。S男は自信たっぷりに演奏し、大きな拍手を浴びた。

実技を伴う教科は、能力差をどうするかがしばしば問題になる。ことに音楽の話の中に私たちが直面している不適応事例の診かた、治しかたの一端を見つけたような気がする。

実技を伴う教科は、能力差をどうするかがしばしば問題になる。ことに音楽の話の中に私たちが直面している不適応事例の診かた、治しかたの一端を見つけたような気がする。

ふるさとシリーズ
—この人に聞く—



と話してくださる時の、ちょっとした所作がとても美しい。

「物心ついた頃には、もう踊っていたじやないかと思います。」

という永年にわたる日本舞踊の修業とこうした日々の精進が若さの秘訣のように思われた。

坂東流（坂東三津五郎が家元）を名乗っているのは、岡崎ではただお一人。

「母が亡くなりましてから、昭和三十一年に母の名を継ぎました。」

今も御自宅に十四、五人のお弟子さん、豊田への出稽古と御指導にお忙しい毎日を過ごしていらっしゃる。三歳の幼児から七十七、八歳までも教えてみえるといふことで、

年齢やその人の才能に合ったお稽古をしないといけないので難しい。」

と言われる。長い間人に教える立場にいらしたので、私たちの思いと共通する部分も多い。

「一つの曲をお稽古するのに、一番頭に入るのは三回か四回の時。それ以上やつても頭に入りませんよ。」

「踊りは、頭の先から足の先、手の先まで神経が行き届いてないときれいな線が出ません。それは、初めにきちんと足腰を鍛えるために、稽古場もわざわざ二階へ造られたとのこと。

「朝九時からお稽古に見える方があるのですが、八時まではここを磨いておかなければなりません。自分の体のためにいいと思ってやっているんですよ。」

など、経験からじみ出た言葉には重みを感じられる。

「今の若い人は、みんな我が儘で、辛抱が足りないから。」

日本舞踊

坂東登代吉 氏

日本舞踊一筋七十年という一代目坂東登代吉さんを東藏前町にお訪ねした。

二階の稽古場でお話を伺つたが、背筋をしゃんと伸ばして端座してみえる姿は大正生まれとは信じ難いほどお若い。

「芸人さんは、年があつて年がないものですから。年がこれだけだなあつて思つたら、何にもできませんよ。」

足腰を鍛えるために、稽古場もわざわざ二階へ造られたとのこと。

「朝九時からお稽古に見える方があるのですが、八時まではここを磨いておかなければなりません。自分の体のためにいいと思ってやっているんですよ。」

と手厳しい一言も聞かれた。お母様はお作がとても美しい。

「習ったものは全部稽古せよ。」

といつも言っていたという。また、「師範の免状が取れるまで仕込んでおけば、それから休んでいても体は崩れないが、途中でやめてしまつたものはだめだ。」

と先生も言われる。すべて今の学校教育に当てはまることがばかりである。

七十年もこの道を歩いて来られても、

「気持ちよく踊れたなんて生涯通じてないのではないか。」

と自己に厳しく、更に奥を極めたいといふ気持ちには本当に敬服させられた。

（生年月日 大正三年四月十日 住 所 東藏前町木平三十二）



るものになりやすい。しかし反面、みんなでひとつ音楽を表現するのであるから、ちょっとした工夫で全員が自信をもつて参加できるようになるのである。

こんな教具が

技術・家庭科指導員 石原 博文

興味・関心の強さを表すかのように、無言で、口もとに力が入り、不動で、目の前の教具を覗き込む生徒たち。

学習意欲の高まりを表すかのように、身を乗り出して、教具を操作する生徒の手もとを、じつと見つめる生徒たち。

これは、機械領域の授業を参観してたときの光景描写である。

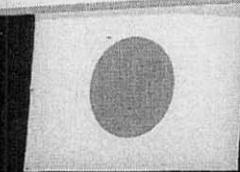
授業は、先生の言葉を少なくし、生徒主体でなければならないとか、生徒の自己教育力を付けるため、学び方を学ばせなくてはならないといわれる。こんな授業を成立させるには、前述のよう、すばらしい教具の活用がそれを容易にさせられる。授業中のつぶやきからもそれがいえる。

「このリンクを長くするとクランクが回らなくなり動かなくなってしまう。」

「ここ軸の穴が大きすぎる」とリンクが傾き、噛み合いが悪くなり動かない。」

「百聞は一見に如かず」という。教師の解説・補説より、実物または、それに似た教具がよい。一時間にひとつ、意義ある教具の提示の大切さを今さらのように教えてくれた。生徒がいきいきし、すばらしい授業であった。

62 岡崎市中学生弁論大会



中学生の主張

立派な大人おとなの如き

初めての岡崎市中学生弁論大会が、七月四日（土）、岡崎市せきれいホールで開かれ、市内各中学校の代表十七名が身近な問題をテーマに意見発表をした。

主催者あいさつの中で、深田教育委員長は、「福沢諭吉を中心日本で初めての弁論大会が行われたのは、明治七年の六月二十七日です。福沢諭吉は定期的に弁論大会を開いて、言論が最大の武器であることを訴えました」と発表者を激励された。

各中学校の代表十七名は、それぞれ、差別、肉親の死、あいさつ、ことばづかい、交通安全などをテーマに日常生活をしつかり見つめた考えを堂々と発表し、会場をうめた五百名の聴衆に深い感銘を与えた。横井教育長は、指導講評の中で「近ごろこれほど感動したことはない」と賞賛された。

この大会は、少年の主張愛知県大会が岡崎市で開かれるのを機に行われた初めての市内大会で、岡崎市教育委員会、中学校長会が主催し、岡崎葵ライオンズクラブの後援も得て中学校関係者を中心総力をあげて取り組んだ。

市内の中学生一万五千四百余名は、「家庭、学校、郷土、友人とのかかわりの中で、日ごろ考えていること、実践していること」を主題にして実践体験文を書いた。

学級、学年校内発表会を通して選ばれた各中学校の代表が、この市内大会で発表した。

少年の主張愛知県大会は、「いま中学生が訴えたいこと」をテーマに、八月二十一日（金）、岡崎市童美丘会館で開催された。

この大会は、国際児童年を記念して五十四年にスタートし、本年は九回目の大会である。県下二百四十三校の八万六千七十七名が応募し、学校審査、ブロック別審査、県予備審査の三回の選考を経て、十三名が県大会の発表者に選ばれた。そのうち、岡崎市から、竜海中三年篠永圭子さん、河合中一年島田知春さんの二名が発表者に選ばれ、審査の結果、篠永圭子さんが最優秀（知事）賞に輝いた。



(市の大会に花をそえたプラス演奏)



(全生徒が参加した各学校の大会)

『生きていく限り』



竜海中
三年
篠永圭子

岡崎市中学生弁論大会 最優秀賞

「あんたさあ、障害者でしょ。障害者があなたたちに逆らうなんて、何考えてるの。」

事態は、ますます深刻になり、うつ向いたその人の眼からは、今にも大粒の涙があふれそうです。私は、その困りはた目を見たとたん、（注意しよう、さあ今こそ注意するんだ）と自分に言い聞かせ、せきを切ったように言いました。

バスの中で、くり広げられたあの痛いえかわいそうでしょ。自分がこの人の立場だつたらどういう気持ちになるの。」

自分でも、驚くほどの大きな声でした。中学生の視線は、私へと変わりました。バスの中で、くり広げられたあの痛いえかわいそうでしょ。自分がこの人の立場だつたらどういう気持ちになるの。」

自分でも、驚くほどの大きな声でした。中学生の視線は、私へと変わりました。

いい子ぶるな」と言つてきたのです。

私は、その場から離れたくなるくらい怖くなりましたが、いじめられている

人のことを思つてやつたことだ、私は正しい、と自分に言い聞かせ、必死に耐えました。実は私にも、幼くして十

歳の年で亡くなつた姉がいるのです。

姉も身体障害者だったのです。生まれた時から右手右足が麻痺し、よくひきつけをおこしていました。でも母は、

私が、あまりにもひどいと思いまし

た。しかし注意できませんでした。乗

時あるごとに、なつかしみ、

泣きのその人を見ながら、（助けよう

いや助けてあげなければ）と心の中で何回も思つてゐるだけです。

「光子はねえ、お母さんの言う事よく聞いてねえ。いい子だつたよ。」

妹の好物だったケーキを買つてきます。

三か月に一回のお墓参りは、欠かさず行き、日々、忘れず手を合わせます。

愛知県教育センター
教科研究部部長

千田 水城

弁論大会の審査にあつて最も印象に残つたのは、中学生という年代は、人間の生涯の中でもいちばんよく伸びていく素晴らしい時期であるということです。

私たちの日常生活は、平凡な小さな出来事の連続です。起伏のあるドラマが、日常的に起こつてゐるわけではありません。

発表者の皆さんは、ともすれば見過ごしにでき事に、押しつぶされそうになりましたが、私は、必死に耐えられたのです。姉を思いながら、母を思いながら、そして、何といつても、今泣いているその子や、冷酷にも次々と人をむちうち、平氣でいる中学生のすさんだ心がいつか安らぐ時を思いながら。

私は、将来、福祉方面で役立つ仕事をしたいと思います。今現在の社会の人々の心は、あまりにも冷た過ぎます。

優れた発表には、聞き手を誘う力があります。また、動かす力があります。

話の内容が、聞き手によく分かるといえだけでは不十分です。「分かっただけでは不十分です。」「分かりました」と理解させた上で、「なるほど、そうか」と

「全くその通りだ」と聞き手をうなづかせ、深く印象づける発表、これが誘う力です。

私たち、生きていく限り、誰もがお互にいたわり合うことが大切です。

そんな時代が、早く来ることを願うだけではなく、それを実現させるよう、私

なりに精一杯生きていきたいと思つて

います。短いバスの中での七分間ほど

のできごとでしたが、私の思いを一層ます力です。

聞き手を誘う力、動かす力のある発表には、テーマの面白さ・切実さ、材料の面白さ、話の組み立てのよさ、この三つの条件が備わつていていました。

「あそこには身体障害者がいるよ。」
「違うよ。あれは変態障害者だ。」

前の方に座つてゐるその人にも聞こえたらしく、顔を真っ赤にして下に向いてしまいました。中学生五名が、平気で人を傷つけるような言動をしていました。しかも、一人は、その人のすぐ後ろの席へいって、いすをけり出しました。いえ、ただけるだけではあります。『ばか』とか『変態』と言いません。『ばか』とか『変態』といふながらです。たまりかねたのでしよう。

「な・に・か・よ・う・で・す・か」と、ことばを返すその声は、発音がはつきりしません。また先程のような笑いがバスの中に響き渡りました。

「なに、あのしゃべり方。やつぱり変態障害者は、おかしい。」

私は、あまりにもひどいと思いまして。しかし注意できませんでした。乗

客は、他には、私一人とのうのに。半泣きのその人を見ながら、（助けよういや助けてあげなければ）と心の中で何回も思つてゐるだけです。

「光子はねえ、お母さんの言う事よく聞いてねえ。いい子だつたよ。」

妹の好物だったケーキを買つてきます。



はじめての試み

矢作中 塚 正司

「おっ！」これはすごい。優勝候補だぞ。」「や／＼また来た。ううん、今度どれをとっても甲乙をつけがたいほどのすばらしさ。」

テーブルの上には、各班の腕によりをかけた夕食がいっぱい。どれをとっても甲乙をつけがたいほどのすばらしさ。

これは今年二年生の山の学習で行われた夕食コンクールでの審査風景である。矢中が今年から始めた画期的な趣向。その中で今まで見たことのないK子の生き生きとした姿があつた。

K子は食事長。学級ではあまり目立たない存在。しかし、何

事にも一生懸命取り組む子。そのK子が計画段階でうかぬ顔。ほかの班は作る物がどんどん決まっていくのに、意見が合わずとり残されるK子の班。K子は食事長としての責任をひしひしを感じていた。

「こういう時こそ、おまえがしっかりしなきゃ。ファイト」私はK子の肩を、「ボン」と一つたいた。ほんとうに決まるんだろうかと不安であったが、しばらくして、K子が私のところに足早にやってきた。

「先生、先生、焼き肉に決ましたよ。みんなで協力してやることにしたんだよ。」

ここにいたるまで、班での話し合いは相当もめたらしい。そして、いよいよ本番。K子の班は全員協力して、一つ一つていねいにいていいに、盛りつけしているではないか。

「どつてもはずかしいけど、でも一生懸命作つたんだよ。」

「おーっ、これはうつ、うまい。焼肉屋で食べるより抜群だ。私は思わず、歓声をあげた。苦しみを乗りこえたK子の、その時のさわやかな笑顔はとても印象的だった。

次の日、K子が作文を書いた。その最後のところに、

「こういう時こそ、おまえがしっかりしなきゃ。ファイト」私はK子の肩を、「ボン」と一つたいた。ほんとうに決まるんだろうかと不安であったが、しばらくして、K子が私のところに足早にやってきた。

「おっ！」これはすごい。優勝候補だぞ。」「や／＼また来た。ううん、今度どれをとっても甲乙をつけがたいほどのすばらしさ。」

教师たちが「おいしい」の連発で食べててくれるし、よかつた。みんなで苦労して作った物だから。先生ありがとうございました。うれしかったです。

はじめての試みは大成功。そこで、確実に人間に成長していくK子の姿を見た。

放課や授業後もいろいろ案を出し、お互いの意見を言つた。

「歌を歌おう。」

「今、授業で習っている歌が簡単でいい。」

「今の歌は、お年寄りには向かないから古い歌が良いだろ。」

「古い歌だと練習をしなければならないから、時間があるだろうか。」

「歌だけでは、子どもたちの印象はどうだろうか。」

「お互いにぶれ合うようにしたらどうだろうか、スキンシップが必要だと思うが。」

等、いろいろな案が出た。そこで、みんなの意見を総合し、「かたたたきの歌」を歌いながら、おじいさん、おばあさんの肩たきをするに決めた。

練習を始めて分かったことは、おじいさん、おばあさんが喜んでくれた。やつてよかったです。

「おじいさん、おばあさんが喜んでくれた。やつてよかったです。」

「お年寄りの姿を見て、子どもたちが喜んでくれた。涙を流しながら喜ぶお年寄りの姿を見て、子どもたちが喜んでくれた。やつてよかったです。」

教育日々

矢西小 渡辺 真理

「おじいさん、おばあさんと一緒に住んでいる子、手をあげて

かたたたき

練習台は担任。朝の会や帰り

練習台を始めて分かったことは、子どもたちに肩たたきの経験があまりないということであつた。そこで、肩たたきの特訓を行つた。

練習台は担任。朝の会や帰り

練習台は担任。朝の会や帰り

の会での肩たたきは、かえって、肩がこつてしまふほどだつた。

中には、何でこんなことするの、もういやだ。

と言い出す子も出てくる始末であつた。

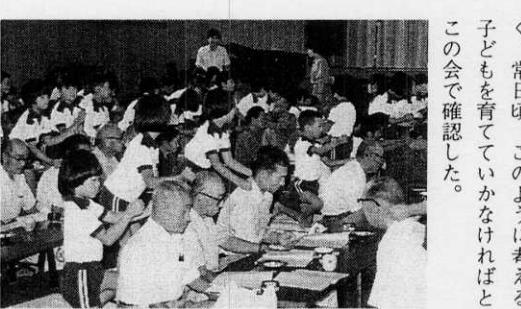
当日、上手にやつてくれるだろかという教師の不安に反して子どもたちは真剣に取り組んでくれた。涙を流しながら喜ぶお年寄りの姿を見て、子どもたちは、

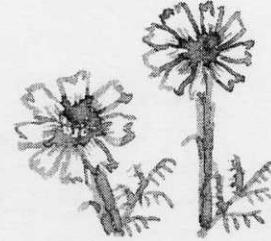
「おじいさん、おばあさんが喜んでくれた。やつてよかったです。」

「お年寄りの姿を見て、子どもたちは、常日頃、このように考える子どもを育てていかなければなりません。」

私たち、敬老の日だけではなく、常日頃、このように考える子どもを育てていかなければなりません。」

この会で確認した。





【寄贈刊行・資料等】

◆放送教育賞で上位入賞

◆教室から 大門小
九九ページ

桑木富士子教諭(大樹寺小)がN

◆学校をひらく 竜海中
A5 二二三二ページ

H.K.会長賞、高木和広教諭(美

川中)が理事長賞を受賞した。
昭和六十二年度、岡崎市よい歯の児童・生徒審査の結果。◆上地の風 (九月号)
B5 八三ページ◆よい歯の児童・生徒
昭和六十二年度、岡崎市よい歯の児童・生徒審査の結果。◆小学校男子
昭和六十二年度、岡崎市よい歯の児童・生徒審査の結果。

全国自作視聴覚教材コンクール

岡崎から一本 文部大臣賞

九年連続の全国入賞を果たす

昭和六十二年度全国自作視聴

覚教材コンクールにおいて、視
聴覚ライブラリー製作の八ミリ
映画「ねりがしら」(社会教育
部門)と常磐南小学校・三浦重光教諭のビデオ作品「オイカワ
の夏」(小学校部門)が見事、
文部大臣賞に輝いた。また、視聴覚ライブラリー、
現職教育社会科部製作のビデオ
作品「下水のしまつ」「電気を
送る」も小学校部門で入選を果
たした。

◆花いっぱいコンクール

昭和六十二年度花いっぱい優
良小学校コンクールにおいて、
次の一校が受賞した。

・愛知県新生活運動協議会賞

・農林中央金庫賞

六ツ美北部小学校

昭和六十二年度フラワーブラ

◆根石小にFBC秋花壇
自治大臣賞ボー・コンクール秋花壇の審査
において、根石小学校が自治大◆教育委員に前川修氏
教育委員後藤朋美氏の任期満
了(九月三十日)に伴い、十月
一日より、岡崎市医師会長であ
る前川修氏が教育委員に選任さ
れた。

中学校女子	荒井 良子 (甲山)	石川奈緒美 (葵)	原田 多恵 (常磐)
六ツ美北	福岡小学校	六ツ美北	福岡小学校
六ツ美北	福岡小学校	六ツ美北	福岡小学校
六ツ美北	福岡小学校	六ツ美北	福岡小学校
六ツ美北	福岡小学校	六ツ美北	福岡小学校

中学校女子	荒井 良子 (甲山)	石川奈緒美 (葵)	原田 多恵 (常磐)
六ツ美北	福岡小学校	六ツ美北	福岡小学校
六ツ美北	福岡小学校	六ツ美北	福岡小学校
六ツ美北	福岡小学校	六ツ美北	福岡小学校
六ツ美北	福岡小学校	六ツ美北	福岡小学校

昭和62年度秋季小中学校各種競技会結果

第20回岡崎市中学校新人総合体育大会

昭和62年10月

種目	性別	1位	2位	3位
陸上競技	男	竜海	美川	南
	女	甲山	六ツ美	美川
軟式庭球	男	常磐	竜海	城北・東海
	女	城北	竜海	福岡・美川
バレーボール	男	新香山	矢作	葵・城北
	女	竜南	竜海	新香山・矢作
バスケットボール	男	葵	城北	甲山・矢作北
	女	竜南	葵	甲山・六ツ美
卓球	男	岩津	常磐	六ツ美・東海
	女	常磐	美川	矢作・六ツ美
ハンドボール	男	美川	城北	葵・竜南
	女	竜南	美川	六ツ美・葵
軟式野球	男	城北	竜海	甲山・六ツ美
	女	東海	城北	矢作北
ソフトボール	男	矢作	福岡	新香山・附属
	女	竜海	竜南	葵
サッカー	男	矢作	福岡	新香山・附属
	女	竜海	東海	葵
体操	男	竜海	東海	葵
	女	竜海	竜南・矢作(同率2位)	
新体操	男	竜海	東海	葵
	女	六ツ美	竜海	矢作

第26回岡崎市小学校陸上競技大会

総合成績 知多県岡崎総合運動場 10月25日

順位	男子	女子	順位	男子	女子
柔道	竜南	福岡	柔道	竜南	福岡
水泳	矢作北	矢作	水泳	矢作北	城北
(9月12日終了)	葵	竜海	(9月12日終了)	葵	竜海

個人記録

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100m	西畠 匡	緑丘	12'6新	鈴木 淑子	愛宕	13'5
80mハードル	近藤 楠	裕治	12'6	馬場 肇	竜南	12'6新
1000m	汐見 英	大門	3'04"6	小屋 悅子	広幡	3'23"7
走り高跳び	中島 智信	緑丘	1m 40cm	今井 朋子	小豆坂	1m 23cm
走り幅跳び	吉村 丈二	大樹寺	4m 93cm	高須八千代	矢作東	4m 10cm
ボール投げ	蜂須賀 隆	三島	65m 34cm	小笠原美子	常磐南	52m 79cm
400mR低学年	根石 小		59"6	細川 小		1'01"5
400mR高学年	上地 小		54"2	根石 小		55"8



おかざきっ子展

音楽や理科、書写があった。

「子供と教師の心のふれ合いの中から生まれた生きた作品を、野外の青空の下にならべることによって、子供の夢の充満する廣場を実現させたのです。」

造形おかざきっ子展は、こうして第一回が開催された。以来会場は東公園、乙川河川敷を経て、昭和三十九年十一月二十二、三日の両日、籠田公園を会場にし、二十四回を迎える。

それまでにも児童生徒の活動や成果を市民に発表する機会は

音楽や理科、書写があった。
昭和三十四年に文部省が「子供の連帯感づくり」や「社会性を育てる」と中心とした人づくりの教育活動を提唱したことを契機に市民参加の行事が計画されていった。おかざきっ子展もその一環として位置づけられる。図工・美術教育に携わる教師の「教師自らが、まず創造し行動しないならば、どうして子供たちへの教育に取り組めようか」という真摯な態度と努力が、今日のおかざきっ子展を創造した大きな力となつた。

・表紙写真
・カット

竜南中
大門小

中根久治
犬塚潤子
小林彰一

「おかざき世界子ども美術博物館」この長い正式名称は別として、その存在は広く県外にも知られている。岡崎という地方都市に、世界でも数少ない施設が設けられたことは、一つの驚きである。その背景に、今年で二十四回を迎えるおかざきっ子展の実績があつたことを知る人は少ないのである。

「おかざき世界子ども美術博物館」この長い正式名称は別として、その存在は広く県外にも知られている。岡崎という地方都市に、世界でも数少ない施設が設けられたことは、一つの驚きである。その背景に、今年で二十四回を迎えるおかざきっ子展の実績があつたことを知る人は少ないのである。

シ

才

ス

ア

新人戦、革新しいユニフォームに身を包み、初めての公式戦に臨む緊張した選手たち。市長杯大会で速く戦っていた先輩に比べ、技術的には未熟でも、先輩に追いつける意気込みは負けていない。結果はともあれ、目標は定まつた。今からの精進で大きな栄冠をつかみとつてほしい。

アイデアいっぱい夢いっぱいおかざきっ子展が地域文化廣場で開かれている。四万五千人の子供たちの作品は、どれをとってもその着想や工夫に無限の可能性を感じるものばかり。素材を提供するのは教師であるが、子供たちはそれを夢いっぱいの宝箱に変身させてしまう。

*日本の宗教

大明堂 ¥2000

*太郎冠者を生きる

白水社 ¥2000

*中学校はいま

岩波新書 ¥480

*0歳 教育の最適時機

井深大 ¥980

この本を

*命ということ 心ということ

椋鳩十

家の光協会 ¥1200

動物にしろ植物にしろそれぞれに生き方がある。生きるに適した環境に恵まれてこそ命を保つことができる。それは人間においても同じである。

今、その一つ一つが失われつつあるなかで、著者は、直接に出会った星の如くきらめくもの、また、きらめく実在のものについてエッセイとし、人間の命と心は切り離すことのできないものであると結んでいる。児童文学者らしく、簡潔で読みやすい書である。